職場体験 「記者」になったよ！

天城中2年生

（9、10日）

倉敷市藤戸町天城、県立倉敷天城中学校の２年生３人が９、10の両日、山陽新聞倉敷本社（同市白楽町）で職場体験学習に取り組んだ。倉敷看護専門学校（同市粒浦）の戴帽式を内田清志記者とともに取材。宮本慶一記者に同行して倉敷署で〝警察回り〟を体験。山陽新聞印刷センター（同市片島町）の見学もした。

刷り上がったばかりの紙面について説明を受ける（右から）岡田実祐さん、渡辺佑里さん、藤井舞奈さん＝山陽新聞印刷センター

「何も事件や事故がなくても、警察署や消防署には欠かさず毎日足を運ぶんだ。毎日行って顔や名前を覚えてもらって、信頼関係を築いておく。すると、事件が起きてもすぐ駆け付けられて、いい記事が書けることもあるんだ」

私は、宮本記者からそう教えていただき、記者の仕事をする上でも信頼関係がとても大切であると分かった。

その他にも、車に乗る時はなるべく窓を開けておいて、周りの音やにおいの変化に注意を払っていたり、何に対しても、すぐに「なぜ？」と尋ねる癖がついていたりすると聞き、記者の皆さんの仕事に対する熱意が感じられた。

私は、この貴重な体験をきっかけに、もっと新聞を読んでいきたい。（岡田実祐）

仕事への熱意感じた

私は今回の職場体験で、多くの、とても貴重な体験をさせていただき、新聞を作ることの大変さを知ることができました。

私たちが日ごろ、早く、多くの情報を知ることができるのは、毎日時間と闘いながら、一人で何役もこなし、取材をして新聞を作っている記者の努力があるからなんだということを強く感じました。そして、少ない時間で、正確な情報を分かりやすく記事にして、多くの人々に知らせるという仕事の難しさを学びました。

今までは、自分の興味のある記事しか見ていなかったのですが、これからは、新聞の見方が変わると思います。お忙しい中、私たちにご指導くださった皆さまに、本当に感謝しています。（藤井舞奈）

新聞は時間との闘い

私は職場体験に行って、新聞記者という仕事の大変さを知りました。毎日、警察署や消防署に行き、何か事件が起こっていないか確認したり、取材の時に写真撮影をしながら話を聞いたりというたくさんの仕事をこなしていると知り、驚きました。

私は取材を体験させてもらったりしましたが、話を聞いてメモをするということが上手にできませんでした。他にも、記事を書く時に漢字を調べたり、どこをどう書けばいいかなど難しいところがいっぱいありました。

でもいろいろな場所を訪ねたり、人の話を聞くということはとても楽しかったです。

新聞記者という仕事の大変さ、面白さなどを知ることができてとても良かったです。（渡辺佑里）

大変だけど面白い

 （C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。